

2024 年度 総合研究所研究チーム活動（最終）報告書概要

2025 年 10 月 31 日

甲南大学長 殿

研究代表者

文学部・教授・服部 正



① 研究課題 社会的処方手法による学生支援の実践的研究

② 研究期間 2023 年度～2024 年度

③ 研究メンバー

服部正（文学部人間科学科教授、美術史・芸術学）、阿部真大（文学部社会学科教授、社会学）、大澤香織（文学部人間科学科教授、臨床心理学）、高石恭子（文学部教授・学生相談室専任カウンセラー、臨床心理学）

④ 助成額 3,400,000 円

⑤ 研究成果の概要（A4 縦置き 1 頁）次項

## ⑤ 社会的処方手法による学生支援の実践的研究 研究成果概要

本研究は、大学への適応に困難を抱える学生に対する支援の手法について、近年医療や福祉の分野で注目を集める「社会的処方」の手法を応用し、実践的な検証と手法の開発を行うものであり、臨床心理学、社会学、芸術学の知見を融合させる学際的な試みとなった。

2年間の研究成果として、のべ23回の現地視察、5回のオンラインでの研究会、1回の対面での研究会、1回の公開研究会を実施した。屋台カフェの実践は2年間で16回を数え、多くの知見を蓄積することができた。現地視察では、社会的処方の具体例として取り上げられる活動拠点や、地域社会でのつながりの創造のリソースとなっている施設、あるいはその潜在的な可能性を持つと思われる施設・活動などを、チーム構成員の専門性と関心に応じて選択しつつ訪問調査を行った。そして、各地での調査による知見に基づき、詳しく話を聞いて学びを深めたいと思う方々に依頼して、研究会の講師を務めていただいた。

研究会に招聘した講師は、医療福祉や地域創造の専門家から、キュレーターや芸術家まで多岐にわたった。それらの研究会を通じて、公共の場所に屋台でカフェを出すことの効果、若者にとって魅力のある居場所となるための要点、カジュアルな場所で相談を行う時に注意すべき点、アートで人と人をつなぐための手法、大学という場に社会的処方を導入することの意義、アートを通じて地域社会とつながる方法など、多くの知見を得ることができた。文献調査、視察、研究会を通じて知見を深めつつ、それらと並行して月に1回のペースで屋台カフェの実践活動を行った。実践活動を通じて生じた疑問が次の研究会のテーマにつながるなど、実践と研究を有機的に循環させながら、活動の質を高めていくことができた。特に、名古屋大学の学生支援本部と、この活動を通じて継続的な関係を構築することができたことは大きな成果といえるだろう。それぞれの活動を相互に視察し、それは甲南大学での対面での研究会の開催につながっただけでなく、2025年5月10日に名古屋大学で開催された日本学生相談学会第43回大会のワークショッププログラムのひとつとしてご招待いただき、研究代表者として服部がワークショップの講師を務め、名古屋大学学生支援本部前で「雑談・屋台カフェ」の実演も行うことができた。

医療関係者による活動や地域活性化の活動の中でも、各地で屋台を活用した実践の事例は多いが、「雑談」にフォーカスして屋台のスタッフや周辺にいる参加者との5分間の「雑談」と引き換えに無料でコーヒーを提供するというルールを明確化したところに、本研究の独自性を見出すことができる。

実践活動を繰り返す中で、「雑談・屋台カフェ」の運営方法も徐々に洗練されていった。活動には有志学生のボランティア参加が不可欠である。学生の意欲を引き出すために、ゼミのオリエンテーションに雑談・屋台カフェを導入し、参加への意欲を高めること、学生が参加しやすいようにカフェの実践を準備と撤収も含めて11:00~14:00とし、参加者を前半と後半に分けるといった仕組みが確立していった。開催する場所によって、提供する飲み物の数には幅があったものの、概ね1回の活動で30~50杯の飲み物を提供し、総計では16回の活動で約620杯の飲み物を提供することができた。当初の予想を超えた成果として、学生の他に職員の方々が昼休みに立ち寄り、学生たちと歓談する姿が多くみられた。また、2024年1月の公開研究会でこの活動を知り、その後、定期的にカフェ活動に参加して下さった学外の方もおられた。実践の中で、大小さまざまな学生の悩みや打ち明け話を聞く機会があり、それは大きな成果といえるものだが、それ以上に、大学という場所に「雑談・屋台カフェ」という場を差し込むことが、大学組織そのもののメンテナンスにも役立つということが理解できたのは大きな成果だった。

活動の成果は、2025年3月10日に発行した54ページの『総合研究所 社会的処方研究プロジェクト 報告書』にまとめた。この報告書がきっかけとなり、2025年度もそれぞれの構成員が多くの研究・実践・発表の機会をいただいていること、「雑談・屋台カフェ」の実践活動も月1回程度のペースで継続し、多くの支持を得ていることを付記しておく。